

言語通級指導教室における発音指導を支援するシステム

勝瀬 郁代*

Support System for Pronunciation Teaching and Practice in Special Education Classes for Language-Disabled Children Enrolled in Regular Schools

Ikuyo MASUDA-KATSUSE*

We developed a support system for pronunciation teaching and practice in special education classes for language-disabled children. It allows exercises to be individually tailored to each child's pronunciation needs. Three speech evaluation methods were prepared for each type of presented words: automatic speech recognition, phonemic discrimination between the correct and the probable error pronunciation of a consonant period, and articulation tests from speech-language-hearing therapists. For about 3 or 4 months, we performed practical field tests with nine students in special education classes in four elementary schools. All of the teachers believed that our system helped improve their students' pronunciation, and the speech-language-hearing therapist felt that it simplified observation of the improvement process of the students' pronunciation.

キーワード：構音障害，発音指導，言語通級指導教室，教育支援，発音練習

1. はじめに

日本の公立小・中学校には、障害の状態に応じて特別な指導を行うための通級指導教室が設置されており、現在は、言語障害・自閉症・情緒障害・弱視・難聴・学習障害・注意欠陥多動性障害（ADHD）・肢体不自由・病弱・身体虚弱の児童生徒が対象となっている。通級指導教室では、障害の状態の改善や克服を目的とした自立活動が行われている。文部科学省のホームページ⁽¹⁾によると、通級児童生徒数は年々増加しており、平成26年度における通級児童生徒数は83,750名にのぼる。さらに、通級指導を高校まで拡大することが検討されている。

障害種別児童生徒数では、一貫して言語障害が最も多い。平成18年度に学校教育法施行規則の一部が改

正され、通級対象となる障害の種類が増えてからは、言語障害以外の障害児の通級者数が急増しているが、それでも、平成26年度の統計では、言語障害が全通級児童生徒のうちの41.0%を占めている。

このように、特別支援教育への需要が急激に高まる一方で、教員の専門的な指導技術が追いついていないという課題が存在している。そこで、特別支援教育の現場を支援するために、外部から専門家が教育現場に派遣されるか巡回を行う取り組みが始まっている。例えば、文部科学省は、平成20年度から4カ年の事業として、「PT、OT、STなどの外部専門家を活用した指導方法などの改善に関する実践研究事業」を実施した⁽²⁾。これは特別支援学校における指導方法の改善をねらったものである。福岡県下においても、一部の自治体では、特別支援学級や通級指導教室に対し、言

* 近畿大学産業理工学部（Faculty of Humanity-Oriented Science and Engineering, Kindai University）

受付日：2016年4月4日；再受付日：2016年6月26日；採録日：2016年8月8日